

市制施行90周年について。

まず最初に、令和9年度の幕開けまで、あと約1年半と迫ってまいりました。そこで、市制施行90周年に向けた取組についてお伺いします。

市制誕生といった歴史的節目に開催される記念式典、そしてまた、数々の記念事業は温故知新の精神、すなわち、市民の皆様と一丸となつて、本市発展の礎を築かれた先人の偉業を顕彰し、伝統文化を再認識し、そして、その上で将来の新居浜市の希望、輝かしい未来を描く絶好の契機としなければなりません。

前回の市制施行80周年の際は、記念事業等に約1億6,500万円といった多額の費用が費やされました。しかし、今回は現在の厳しい財政状況をしっかりと把握、認識し、身の丈に合った経費の中で市民の皆様と英知を結集し、記憶に残る記念式典、記念事業となるよう、しっかりとした体制を組み、取り組んでいかなければなりません。いかに市民の機運を盛り上げ、いかに市民の皆様と協働で市制施行90周年を迎えるかが強く問われております。

私は、記念事業等の決定に当たっては、かつてのような職員提案のみといったやり方ではなく、直接市民の皆様から、広く御希望、御意見を募集し、そして、市民も加わったプロジェクトチームなどを結成し、その中で予算を見据えながらの選考、あるいは寄せられた意見をヒントに調整、決定していくといった取組が不可欠であると考えております。

参考例の1つとして、東京都府中市では、市民協働型の記念式典を目指し、式典司会者を市民から公募しました。また、千葉県我孫子市では、市内の小中学生から記念ロゴマークを募集し、そのロゴマークが年間を通じて記念事業のチラシ、ポスター、市ホームページ等で使用されたそうです。

市長御自身も公約の柱として、みんなの声を政策にといったことを大きく掲げられており、私は、つい先日まで、市内全校区・地区で開催されていたまちづくりタウンミーティングにおいて、市民の皆様から広く記念事業などに関する意見募集をされるのではないかと期待しておりました。しかし、残念ながら、そのような内容は盛り込まれておりませんでした。市民の皆様と協働で、すなわち、記念事業等に対する意見募集、そして選定、決定から開会当日の運営等に至るまで、市民の皆様により広く、より深く参画していただくためには、スケジュール的に来年度のタウンミーティング時期では間に合わず、もう既に数々の取組を開始しておかなければ遅いのではと心配しております。

そこで数点お聞きします。

まず、私や一般市民の目には、現時点で市の積極的な行動が見えておりませんが、現在、記念事業に関し、どのような考え方、どのような体制、どのようなスケジュールで臨もうとされているのか。また、既に取り組まれている場合は、これまでの取組内容について御教示をお願いします。

次に、広報活動、PRについてです。

市民の機運を着実に盛り上げていくためには、何といたっても、市内外への地道で粘り強い広報活動が重要となります。テレビ放映を利用した広報も開始されていますが、今後どのような広報媒体を、どのようにす

み分けし、いつからこういった形で市民の機運を盛り上げていこうとされているのか、御教示をお願いします。

次に、近隣自治体や都市間交流協定を締結している都市に対する取組についてです。

記念式典への招待といった消極的な対応ではなく、主要な記念事業、冠事業への一体となった参画など、連携強化を図る絶好の機会と捉えるべきだと考えますが、御所見をお伺いします。

次に、記念冊子についてお尋ねします。

市民の間では、90周年を迎える年に、今回も記念冊子として、新居浜市史の部門編、新居浜太鼓台が刊行されるとのうわさが飛び交っています。しかし、市のホームページによりますと、この発刊は来年となっております。太鼓台の記念冊子に関しては、これまでも数多くの市民の皆様が強い関心を示されておりますが、実際の発刊予定や冊子の内容、印刷冊数、また、市民の皆様の入手方法などについて御教示をお願いします。

最後に、太鼓台統一寄せについてです。

これまでの周年記念事業では、50周年の1987年は国領川河川敷、60周年の1997年は楠中央通り、70周年の2007年は国領川河川敷と山根公園グラウンド、そして前回の80周年の2017年はあかがねミュージアム前で開催されています。いずれも、ふだん一堂に会する機会のない各地区の太鼓台が集結し、地区ごとの特色ある演技を披露するとともに、地区を超えた一体感を感じることができる迫力ある統一太鼓寄せが実施されました。

また、今年5月には、万博会場において、異なる地区の3台の太鼓台が、息を合わせて演技を行い、大きな歓声が沸き起こりました。来るべき市制90周年記念事業においても、万博会場に勝るとも劣らない感動に満ちた統一寄せが開催されることを期待しているところですが、各太鼓台に万全を期して参加いただくためには、十分な周知と一定の準備期間が必要であると考えます。

そこでお伺いします。

周年記念事業としての太鼓台統一寄せを開催するお考えはありますか。あわせて、市民が誇りである太鼓祭りの魅力を伝え、次の100周年に向けて持続発展させるための効果的な演出も検討する必要があると思いますが、市長の御所見をお伺いします。

**○議長（田窪秀道）** 答弁を求めます。古川市長。

**○市長（古川拓哉）**（登壇） 市制施行90周年についてお答えいたします。

記念事業についてでございます。

まず、記念事業に対する考え方についてお答えいたします。

市制施行の周年事業は、単なるイベントではなく、本市のこれまでの歩みを振り返り、先人に思いをはせたり、未来に向け、本市の目指す将来像を考える貴重な機会であると捉えております。記念事業の具体的な内容やスケジュールに関する協議には至っておりませんが、推進体制等の検討を始めたところであり、今年度中を目途として、庁内での事業推進体制を構築したいと考えております。

次に、広報活動についてでござい

ます。

市制施行90周年事業に関する情報につきましては、概要が決定次第、市政だよりや市ホームページをはじめ、様々な情報媒体を活用し、速やかに広報活動を開始したいと考えております。

また、広報活動は80周年事業においても、各事業共通の課題であったことから、地道な広報活動や広報媒体のすみ分けは非常に重要であると考えております。そのため、若年層にはSNSを中心に、中高年層にはテレビや市政だより、フリーペーパーなどを中心というように、ターゲット層を意識した重層的、効果的な広報に努め、市民や関係者の機運を盛り上げ、イベント等への積極的な参加を促してまいりたいと考えております。特にSNSを活用した広報では、情報の拡散や市民との双方向のコミュニケーションが期待でき、市民の生の声を聞くことができるため、私自身も機会を捉えて、SNSを活用した広報に努めてまいりたいと考えております。

次に、近隣自治体、交流都市への対応についてでございます。

記念事業は、本市の魅力を市内外にPRする絶好の機会でもあると考えております。このことから、県内の自治体をはじめ、都市間交流協定を締結している大府市や横須賀市に対し、本市での周年イベント開催を広く周知、広報していきたいと考えております。また、本市以外の自治体と連携、協働することで、集客や事業効果の増大が期待できる周年事業につきましては、都市間の連携、交流の深化に向けて、近隣自治体のみならず、これまでスポーツや物産販売等において交流を重ねてきた都市にも参画を提案したいと考えております。

○議長（田窪秀道） 高橋総務部長。

○総務部長（高橋聡）（登壇） 新居浜市史部門編、新居浜太鼓台についてお答えいたします。

まず、冊子の発刊予定につきましては、新居浜市史刊行計画に基づき、令和9年3月に完成、翌4月の発刊を予定しております。

次に、冊子の内容につきましては、現在の太鼓台と大島の屋台の特徴を写真等の資料と共に紹介するほか、太鼓祭りの歴史、文化等について解説するものとなる予定でございます。

次に、印刷冊数につきましては、現時点では未定でございますが、過去に本市が発行いたしました太鼓台に関する冊子の部数を参考にしながら、今後、決定してまいります。

次に、冊子の入手方法等につきましては、市役所の売店、マイントピア別子、あかがねミュージアムでの販売のほか、郵送での取扱いも予定しております。また、図書館、学校、公民館等の公共施設でも御覧いただけるよう配布を予定しております。

○議長（田窪秀道） 藤田経済部長。

○経済部長（藤田清純）（登壇） 太鼓台統一寄せについてお答えいたします。

藤田議員さん御案内のとおり、地区を越えて市内の太鼓台が一堂に会し、演技を行うことは非常に魅力的なイベントであると考えております。一方で、市内の54台の太鼓台を一堂に集めると、かきくらべを行うことができる場所、交通規制による

地域住民への影響、安全確保のための警備体制の確保等の問題があることも認識しております。しかし、市民や観光客の方々の周年事業に対する期待も大きいものと考えておりますことから、各地区太鼓台運営委員会・協議会と意見交換をしながら、100周年を見据えた上で、90周年事業として、できることを協議してまいりたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 藤田誠一議員。

○15番（藤田誠一）（登壇） 御答弁ありがとうございます。

やっぱり太鼓台の統一寄せが、僕のLINEとかメッセージにいっぱい来るんですが、要望というか、やっぱり今も言われたように、54台が集まることはなかなか難しいということは、市民の皆さんも把握しています。そこで、ぜひ言っといてくれと言われたことがあります。54台の結集は、いろいろ困難が予想されると思うんで、ぜひ54台のはっぴの展示、54台の写真を組み合わせた大型バックパネルを作ってほしい。それらの前で記念撮影をしたい。それはどこでしたいのと言ったら、あかがねミュージアムとかマイントピア別子で、54台のはっぴをバックにして記念に写真撮りたいんよ、孫と。とか、そういうことをよく言われております。

あと、川西、川東、上部、地区別のガチャガチャですかね。例えばアンパンマンで、なかなかアンパンマンが取れないから、何回も何回も孫のためにガチャガチャをして、3,000円使ったとかいうことを言われるんですが、このガチャガチャの中身は、また市民の皆さんと御相談してもらえたらと思うんですが、ぜひ、太鼓台自体の結集が難しいのであれば、54名の団長さんを集めた決起集会とか、54のはっぴとか、その54という数に合わせて、皆様の知恵、市民の皆様の知恵を借りながら、ぜひ盛り上げていってほしいと思います。